

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2015年10月7日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

いよいよ 10月12日は、北海道社会保障学校 in 江別 江別市民会館



記念講演は「安倍政権の社会保障改革のゆくえ」

講師は 芝田英昭・立教大学教授

4つの分科会 ①国保制度よくするために（都道府県化と保険料引き下げ運動）
②これからどうなる医療・介護 ③マイナンバー制と社会保障 ④くらしに役立つ講座

第2分科会「これからどうなる医療・介護」でも 介護問題についても学び、交流します。

介護保険で誰のものか 9月27日安心できる介護制度をめざす集会

9月27日、「介護に笑顔を」道連絡会が、安心できる介護制度をめざす集会を行い、70名が参加しました。

共同代表の河原政勝さんが、「介護現場がもたない—これからどうなる、どうする公的介護保障制度」をテーマに講演しました。高齢者が増え、貧困も広がっていることを紹介し、政府が描く2025年の医療・介護の将来像とその具体化である今年度の介護制度の改定の影響について説明しました。さらに改悪しようとしている内容も紹介し「今後の介護保険制度の具体的な改善要求」を示し「国民の暮らしと人権、社会保障を守るために政治を根本的に変えましょう」と訴えました。



パネルディスカッションでは、利用者家族、介護事業所や労働者の代表5名が発言しました。働きながら母親を介護している認知症の人を支える家族の会の田中宗明さんは「精神的負担が大きく、何とか共倒れしないように介護しています。介護と仕事のバランスが悪く、周りで介護をしている仲間のほとんどが、介護する以前に比べて、収入が3割にまで落ちています。介護保険って誰のためのものかと感じてしまいます」とし、「明日はみなさんにも関わるかもしれないので関心をもってほしい」と呼びかけました。

札幌市	2014年 4~8月	2015年 4~8月
廃止介護事業所	56	74
(内経営不振)	13	24

デイサービスすまいる管理者の端邦仁雄さんは「マイナス改定で札幌市でも廃業が増えています(左表)。当施設も大幅な減収となりました。これは正職員の1.5人の人件費に相当しますが、質が低下しないように対応しています」、ヘルパーステーション手稲管理者の阿部ユウ子さんは「8月から2割負担になり、訪問介護の回数を減らした方もいました。生活支援の対象が減らされようとしています。専門的な介護が必要です」、ケアプランセンターあゆみ・ケアマネジャーの田村優実さんは「訪問先で『私たちは役立たずなので、死ねと言うこと?』とよく言われます。特に低所得の方が困ります」、道労連介護対策チームの中川喜征さんは「介護労働者は、一般の労働者と比べて月9万円低く、労働実態も深刻です。人材確保と処遇改善が重要です」とそれぞれ発言しました。

参加者からは、「こうした集会を地域の中で行っていることが大事」などの感想が寄せられました。

旭川・上川社保協 4月実施の要支援の総合事業について士別市と懇談

9月28日、旭川・上川社保協が士別市と懇談しました。士別市は、要支援の総合事業を実施している数少ない自治体です。2017年度までの猶予期間がある中、なぜ今年度(4月)から開始したのか、開始に当たっての周知の方法、サービス事業者とのやり取りなどを聞きました。士別市は、課題は多いが、地域支援事業や配食サービスなど一定の基盤ができていた、市内では介護事業所が少ないためいねいな話し合いを積み重ね、説明会等を実施してきたとのことでした。現在は、現行相当の事業のみを実施しているため、特段意見は出されていないそうです。

